

水船六洲さんにならって スタンプ技法で、オリジナルデザインのトートバッグを作ろう！

優れた版画を数多く生み出した水船六洲は、鳥や蝶や人体を、ごく単純な線と色彩で表現しました。しかも鉛筆や筆を使って直接紙に描くのではなく、版画という、間接的で半ば偶然的な要素が加わる方法を好んで用いたのです。この、必ずしも自由にならない方法を用いることで生じる面白さを重んじたからでしょう。

美術に正解はありません。自由に楽しく、水船六洲さんにならって失敗を恐れず、上手く描こうと思わないでいきましょう。本来なら画材ではないもの＝野菜（カボチャ・さつまいも・にんじん）やゴム版を切ったりしたものを使って、判子みたいにポンポン押すスタンプ技法で楽しいデザインを作り、自分だけのトートバッグを作ってみましょう。

開催日時：2020年12月20日（日）13:30～15:30

開催場所：呉市立美術館

講師：比治山大学短期大学部美術科 斉藤克幸

制作行程

1：図案を考える（10分）

＊紙に簡単にスケッチしてみましょう、ただし完璧にスケッチどおりに制作するわけではありません。

図案の例：蝶（ちょうちょ）、鳥、魚、象（ぞう）、人の顔、車、電車、ロボット、お化け、などなんでも好きなもの

2：図案が決まったら、どんなスタンプで制作していくかを決める（30分）

＊むしろ、この行程が重要です。例えば、蝶の羽をカボチャの半切りまたは四つ切りをスタンプにして用い、羽の模様はゴム版を丸く小さく切って、ポンポン押す、などです。スタンプの形状が図案に大きく影響し、思いもよらない効果で面白くしてくれます。

3：スタンプをだいたい作ったら、最初に紙で制作してみる（30分）

＊スケッチを見ながら、スタンプを押して制作していきます。最初の考えでやってみて、うまくいかない場合は、違うスタンプを用いてみましょう。また色彩も、この時に色々ためてみましょう。

4：トートバッグに制作し完成させる（20分）

＊本番です、でも失敗はありません。偶然が生み出してくれた造形を楽しみましょう。世界に一つしかないトートバッグができました。

＊包丁やカッターナイフやはさみや彫刻刀を使いますので、じゅうぶん注意してください。

＊耐水性で洗濯にも耐える絵の具を使用しますので、汚れても良い服装で制作してください。

＊絵の具が完全に乾燥した後、アイロンをかけておくと接着力が増します。